

2018年度「日本電通メディアアート支援寄金」の支援活動

当社は CSR 活動の一環で、70 周年を記念して「日本電通メディアアート支援寄金」を創設し、関西のメディアアートを支援しています。

メディアアートとはコンピュータその他の電子機器等を活用した芸術であり、身体を使って楽しむ作品や、シリアスなテーマを読み解かせる作品など、形式や鑑賞方法、印象もさまざまです。このような新たな価値観やイノベーションを予感させる萌芽性をはらんだ作品を呼称します。

2018 年度の公募では合計 13 件の申請があり、厳正な審査の結果、3 件のメディアアートを助成いたしました。

- ・ 展示空間で映像と演奏を連携する作品を制作された「代表者 林勇氣氏」
- ・ マイクロアーク放電回路を大規模で配置する作品を制作された「代表者 三原聡一郎氏」
- ・ iphone を使って人の眼差しを表情やしぐさに変換し表現する作品を制作された「代表者 林智子氏」

詳細は、こちら (<http://artssupport-kansai.or.jp/contents/report/>) をご覧ください。

2019 年度も引き続き、関西のメディアアートを支援して参ります。